



女性センター開設 キックオフシンポジウムを開催

2013年2月8日、帝京大学板橋キャンパスにて、男女共同参画活動のキックオフとなる「帝京大学女性医師・研究者支援センター」（以下、本センター）の設立記念講演会を開催いたしました。

昭和女子大学学長で、ベストセラー「女性の品格」の著者でもある坂東眞理子先生の基調講演では、女性の社会的活躍の重要性について貴重なお話をいただきました。

また特別講演として、政府の女性研究者支援事業の中心的オフィサーである山村康子先生から、国の政策として女性研究者育成の必要性について、宇宙航空研究開発機構（JAXA）国際部参事の塩満典子先生からは、具体的な競争的資金の獲得方法についてお話をいただきました。

帝京大学からは、本センターの今後の取り組みについてセンター室長の野村恭子より報告を行い、本センターとの連携について帝京大学臨床研究センター・センター長の寺本民生先生が説明を行いました。講演会後には、男女共同参画に取り組むさまざまな大学の先生方による情報交換会も行われました。

当日は会場に300名近くの聴衆が集まり、学外から男女共同参画で活躍されている他大学の先生方も参加され、盛況のうちに講演会と情報交換会を終えることができました。

シンポジウム概要

帝京大学女性医師・研究者支援センター開設記念講演会

日時：2013年2月8日（金）午後4時～6時30分
場所：帝京大学板橋キャンパス 本部棟2階 臨床大講堂
司会：金子希代子先生（帝京大学薬学部教授）

開会の挨拶

沖永寛子先生（帝京大学常務理事、女性医師・研究者支援センター長）

基調講演

「グローバル女性人材をめざして」坂東眞理子先生（昭和女子大学学長）

特別講演

- 日本の女性研究者の現状と国の女性研究者支援・育成に係る政策
山村康子先生（独立行政法人科学技術振興機構 / 科学技術システム改革事業プログラム主管）
- 女性研究者の活躍促進～政府関係機関での経験から～
塩満典子先生（宇宙航空研究開発機構（JAXA）国際部参事）
- 帝京大学における女性医師・研究者のニーズ調査と今後
野村恭子（女性医師・研究者支援センター）
- 帝京大学臨床研究センターとの連携
寺本民生先生（帝京大学臨床研究センター・センター長）

閉会の辞

帝京大学学長 沖永佳史先生

シンポジウムにて、帝京大学女性医師・研究者支援センター室長の野村よりご報告させていただきました本センターの理念と取り組みについては、次ページをご覧ください。

特集

2013年4月 帝京大学女性医師・研究者支援センターを開設

日本における女性の社会進出はOECD諸国の中で極めて遅れており、高齢化社会、出生率低下の現代社会において喫緊の課題です。医療においても2004年に新医師臨床制度が導入され、マッチングに伴う大学入局者の減少、地方における医師不足、医療崩壊などから、女性医師による医療現場での活躍が望まれています。こうした背景を受け、文部科学省あるいは科学技術振興機構を中心に、女性研究者支援ならびに男女共同参画活動を推進する動きがあり、すでに国立大学を中心に盛んに活動が行われています。私立大学においてもこのような活動は必要であり、帝京大学は2013年4月1日に女性医師・研究者支援センターを設立しました。



センターの理念

女性の潜在能力を最大限に引き出し、女性の社会的役割と両立させながら質の高い研究活動が生涯にわたって行えるよう、女性医師ならびに研修医や大学院生を含めた全学の研究者育成を行います。

仕事と家庭を両立できる環境整備を中心とした「男女共同参画社会の構築」と、自然科学系研究者を中心とした女性研究者の育成をめざす「研究者育成」は車の両輪の関係で、女性医師・研究者支援センターはこのふたつに注力し活動を行います。

男女共同参画社会の構築

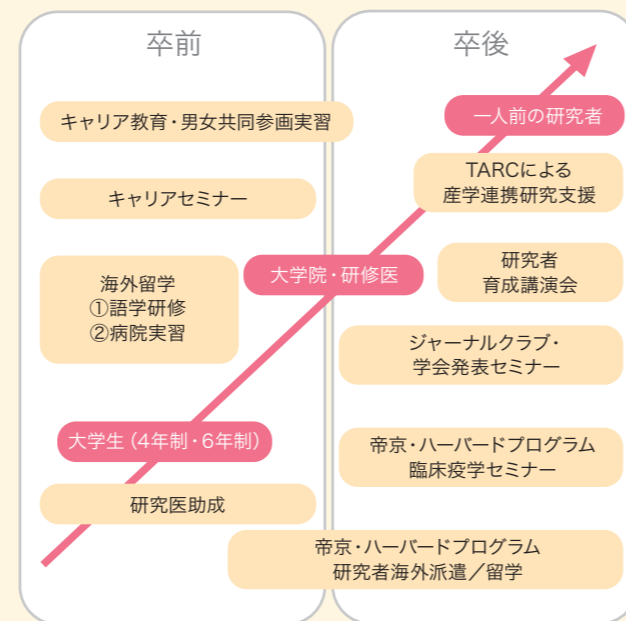
研究者育成

二本柱

センターの取り組み

1. 卒前・卒後の一貫した研究者教育基盤整備

教育基盤は全学部に通じた大学の重要なインフラです。本センターでは、自然科学系の研究者として自立することを最終目標とし、卒前、卒後の一貫した研究者教育基盤制度を構築していきます。そのいくつかの活動についてご紹介します。



●イギリス語学研修

医学部・薬学部・医療技術学部の学部生と大学院生を対象とした、イギリスのダラム大学*への短期語学研修プログラムです。在学中に英語力を鍛え、研究者としての基礎力を高めることが目的です。世界遺産に指定されている古城のある美しい都市ダラムで、学生は約3週間のプログラムにて集中的に語学研修を受講。帝京大学と提携しているオックスフォード大学やケンブリッジ大学も訪問します。*ダラム大学は帝京大学の姉妹校です



●キャリア教育

医学部5年生を対象に、「女性医師の社会活用」というテーマで2週間の実習を行います。女性医師・研究者は、キャリア初期の多忙な時期と結婚・出産・育児といったライフイベントの時期が重なりがちです。学生のうちから、将来遭遇するであろうライフイベントと仕事の両立についてシミュレーションし、「どのようにプロフェッショナルとして修練を積みながら満足のいく人生を送っていくのか」自分なりに考え、戦略を立てます。

また、家庭と仕事を両立しながら活躍している女性研究者などを招聘し、学生に話をするキャリアセミナーも行っています。



●若手研究者海外派遣・海外交流

1993年から行っている「帝京ハーバードプログラム」では、学術シンポジウムを2～3年ごとに開催し、若手研究者を派遣、英語での発表の機会を提供しています。また、ハーバード大学から教授を招聘し、特別講義を行っています。昨年はダラム大学にて帝京医学教育シンポジウムを開催し、日本が直面している医師不足の問題と女性医師の活用について発表しました。この話題は反響を呼び、現在ミシガン大学医学教育学講座やダラム大学医学教育講座と共同研究に発展しています。

2012年ダラム大学医学教育シンポジウムが開催され、帝京大学より4名の演者が発表しました。



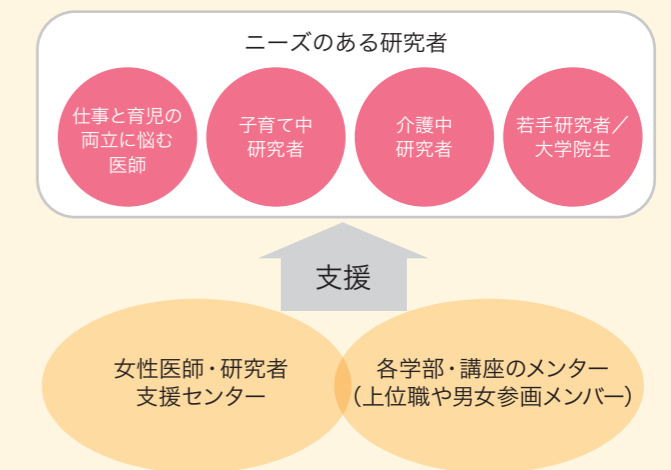
●産学連携・キャリア構築支援

板橋キャンパスに設置されている「帝京大学臨床研究センター」と連携し、中堅から上級研究者の産学連携支援、キャリア構築支援を行います。

2. メンター制度

メンターとは、「師匠」「優れた助言者」「指導者」を意味します。ここでは、若手研究者の相談を受け、研究指導を行う上位職の研究者を指します。

帝京大学ではニーズのある研究者に対し、各専門講座の男女共同参画メンバーからなるメンターに加え、女性医師・研究者支援センターからの研究指導を受けることができます。これにより、漏れのない研究指導体制が提供されます。



3. 働きやすい環境整備

帝京大学の働きやすい環境整備には主に「保育支援」と「労働環境整備」が含まれます。帝京大学板橋キャンパスでは「学内保育室」と板橋区委託事業としての「病児・病後児保育所」を完備しています。また帝京大学医学部附属溝口病院と帝京大学ちば総合医療センターにも保育室を完備しています。研究者のニーズを知るため、定期的に全学の教員に対し、子育てや介護のニーズ、各種ハラスメント(セクシャル・アカデミック)について実態調査を開始しました。



板橋キャンパス保育室

病児・病後児保育所

今後の 取り組み

今後、帝京大学女性医師・研究者支援センターに期待されていることは、女性のみならず男性も含め、家庭を持ちながらも働きやすく、研究者として成長できるような環境をつくることです。研究支援や育児支援を行う制度の確立、セミナーやシンポジウムの開催、調査の実施等、さまざまな活動を行っていく予定です。

帝京大学で働くみなが働きやすい職場をつくるため、また、将来、帝京大学にたくさんの学生、大学院生、研修医が集まるよう、魅力的な就労環境・教育環境を全学部で整備していきます。帝京大学がよりいっそう素敵な大学となりますよう全力で取り組んでまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

最後に、キックオフシンポジウムならびに本センターの活動に対し、多数の方々にご支援とご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

アンケートに ご回答をお願いいたします。

本センターでは、現在「育児ニーズ・ワークライフバランス・ハラスメントに関するアンケート調査」を行っています。

この調査の目的は、働き方、育児・介護等の実態、男女の社会的役割分担への認識、各種ハラスメントの実態を把握するとともに、その対策を立案し支援計画に生かすことにあり、今年開催が計画されている帝京大学男女共同参画シンポジウムにて発表する予定です。

ご回答がまだの方は、ぜひご回答くださいますよう、お願い申し上げます。

センター長 からの メッセージ

この度、平成 25 年 4 月 1 日に女性医師・研究者支援センターが帝京大学に開設されました。本学では、女性の潜在能力を最大限に引き出し、女性の社会的役割と両立させながら質の高い研究活動が生涯にわたって行えるよう、女性医師ならびに男女を問わず、研究者の人材育成を全学部にて行っていきます。

本センターでは各学部における男女共同参画委員とともに、男女を問わず本学で働く皆さんにとって働きやすい職場環境の実現と、研究・教育の場が魅力的になることをめざし、活動していきます。



帝京大学女性医師・
研究者支援センター
センター長

冲永 寛子 教授

室長からの メッセージ

当センターでは、育児支援や上位職への登用だけでなく、研究者としての能力育成や、世界のフィールドで活躍する機会の提供など、出産や育児、介護などのライフイベントに遭遇しても「ここで働き続けたい」と思えるような能力・環境づくりに取り組んでいます。日々の仕事や研究、家庭や生活を含めたすべてを楽しむことができる環境を作ることが、さらなる環境の整備や、後進の育成にもつながっていくと考えています。どうぞ、お気軽に女性センターに立ち寄ってみてください。



帝京大学女性医師・
研究者支援センター
室長

野村 恭子

■お問い合わせ先

帝京大学女性医師・研究者支援センター

〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1 病院棟 6 階

Tel. 03-3964-8456 / Fax. 03-3964-8457 / E-mail : women@med.teikyo-u.ac.jp

URL. http://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/laboratory/support_center/

開室曜日・時間：月～金 9:00-17:00

※掲載情報は 2014 年 3 月現在のものです。 編集：竹内 真純